



第1回 アジア・メディカル・ コンタクトレンズ・セミナー

The 1st Asia Medical Contact Lens Seminar

日 時: 2011年11月13日(日)
10:00AM – 5:05PM

会 場: 京都テルサ(京都府民総合交流プラザ内)
西館3階 第1会議室

日本眼科学会
認定単位 3単位

本セミナーは、アジア諸国及び欧米の眼科医を中心として、医療用あるいは治療用特殊コンタクトレンズに係わる最新の研究内容を共有し、また先達よりさらなるご助言、ご指導を賜りつつ本分野の発展の一助となることを目的とするものです。

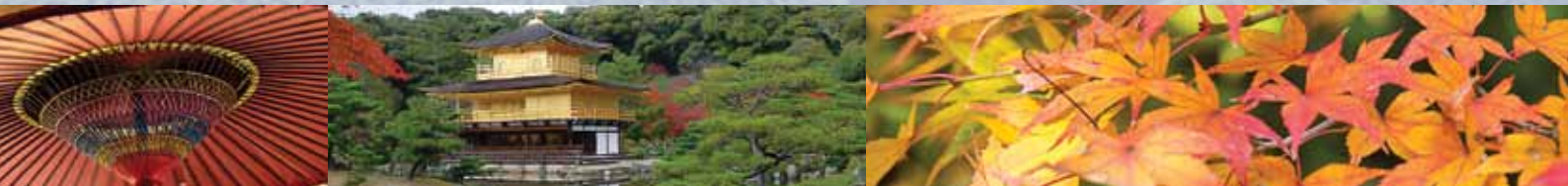
第1回アジア・メディカル・コンタクトレンズ・セミナーは、下記による主催および協賛での開催を予定し、概要は下記の通りです。

アジア・メディカル・コンタクトレンズ・セミナー世話人:

代表: 木下 茂(京都府立医科大学 眼科学教室教授)
松原 正男(東京女子医科大学 東医療センター 眼科部長 教授)
Choun-Ki Joo, Professor, College of Medicine, The Catholic University of Korea

後援: 日本コンタクトレンズ学会

協賛: アイミー(株)、(株)アルファコーポレーション、(株)サンコンタクトレンズ、(株)シード、
(株)日本コンタクトレンズ、東レ(株)、(株)メニコン、
Boston Group, Bausch & Lomb Incorporated, AMETEK Precitech, Inc., Sterling Ultra Precision



見える喜びを大切にしたい
Aime
A CooperVision Company

ALPHA CORPORATION

Boston
Materials

Menicon

Nichicon

SEED

Sterling
ULTRA PRECISION



SUN CONTACT LENS

TORAY
Innovation by Chemistry

第1回 アジア・メディカル・コンタクトレンズ・セミナー プログラム

演題#	時間	ショートタイトル	演者(所属)	座長
	10:00 - 10:05	開会のご挨拶	木下 茂(京都府立医大)	
1	10:05 - 10:35	HCL処方	糸井素純(道玄坂糸井眼科医院)	
2	10:35 - 11:05	トーリックレンズ	水谷聡(水谷眼科診療所)	
3	11:05 - 11:35	円錐角膜・不正乱視	坂田実紀(両国眼科クリニック)	松原正男 (東京女子医大)
4	11:35 - 12:05	Myopia Control	Chun-Ki Joo (Catholic Univ. of Korea)	
	12:10 - 13:30	昼食・協賛会社によるプレゼンテーション		
5	13:30 - 14:00	Rose-K	Paul Rose (Visique Rose)	
6	14:00 - 14:30	Presbyopic Lens	Craig Norman (Michigan College of Optometry)	
	14:30 - 14:45	コーヒープレイク		
7	14:45 - 15:15	オルソーK	平岡孝浩(筑波大学)	
8	15:15 - 15:45	円錐角膜	東原尚代(ひがしはら内科眼科クリニック)	木下茂 (京都府立医大)
	15:45 - 16:00	コーヒープレイク		
9	16:00 - 16:30	円錐角膜・不正乱視	松原正男(東京女子医大)	
10	16:30 - 17:00	オキュラーサーフェス	今安正樹(メニコン)	
	17:00 - 17:05	閉会のご挨拶	松原正男(東京女子医大)	

座長



木下 茂
京都府立医科大学
眼科学教室教授



松原 正男
東京女子医科大学
東医療センター 眼科部長 教授

演題 1: 前眼部OCTを利用した球面HCL処方におけるトライアルレンズのBC選択プログラム



糸井 素純
道玄坂糸井眼科医院 院長

前眼部OCT SS-1000から算出されたenhanced BFSを利用したトライアルレンズのBC選択のプログラムから計算されたBCは、実際に処方されたHCLのBCと非常に近い値を示し、円錐角膜のみならず、正常角膜や高度角膜乱視でも有用と考えられた。

演題 2: トーリックレンズの処方



水谷 聡
水谷眼科診療所 院長
愛知医科大学非常勤講師

乱視用のトーリックコンタクトレンズ(トーリックCL)の処方は難しく、面倒なものとして敬遠されがちであるが、処方に必要な知識を身につけ、患者の乱視の程度および屈折状態を理解し、適切なレンズを選択することで処方の成功に結びつく。今回、乱視症例に対するハードとソフトトーリックCL処方適応、処方手順を症例を提示して説明する。

演題 3: 角膜不正乱視症例に対するRose K2PG/ICの処方



坂田 実紀
小沢眼科内科病院

角膜移植後やペルーシド角膜変性症、さらにLASIK術後のケラトエクタジアなどの高度の角膜不正乱視眼は通常の球面ハードコンタクトレンズでは処方が困難な場合が多い。これらの症例に対してデザインされたRose K2 PG/ICは逆形状多段形状をしており、角膜上での安定性が改善し、また比較的良好な視力が得られる。今回はこのRose K2 PG/ICの処方について角膜形状解析結果との関連性を考察しながら解説する。

演題 4: Effect of orthokeratology lens on axial myopia progression in children



Chun-Ki Joo
Professor,
Dept. of Ophthalmology
College of Medicine,
The Catholic University of Korea

This study was designed to demonstrate the change of optical properties, including refractive error, corneal thickness, keratometric values, axial lengths, and vitreous chamber depths and evaluate the effect of orthokeratology contact lenses on myopia progression in children. 90 subjects with spectacles and 58 subjects with orthokeratology lenses were enrolled in this study. There was a significant difference in axial length between the two groups only after 24 months from the treatment start ($p=0.03$). Until then, both groups showed continuous axial length elongation with less tendency in the orthokeratology contact lens wearers. Similarly, vitreous chamber depth showed differences between the two groups 24 months after the initial visit ($p=0.04$).

演題 5: The Rose K2 lens system for keratoconus and irregular cornea



Paul R. Rose, OD, FNZSCLP
Director of Visique
Rose Optometrists
Hamilton, New Zealand

円錐角膜は症例によって形状がさまざま、その突出部の形状から「乳頭状」、「楕円状」、「球状」に分類されることがあります。これらの多様な円錐角膜に対して、1種類のデザインのコンタクトレンズで正しく処方を行うことは当然ながら不可能となります。そこで今回は、円錐角膜患者用に特化して開発されたコンタクトレンズ、ローズKレンズのデザインコンセプトやその処方の考え方について広くご説明いたします。さらに最新の情報提供として、「ローズK2NC」は角膜中心部に限局的に突出が見られる「乳頭状円錐角膜 (Nipple Cone)」に特化したレンズデザインが採用されたもので、この設計コンセプトならびに適応症例についても詳しく紹介いたします。

演題 6: Management and Design Strategies for the Presbyopic Contact Lens



Craig W. Norman, FCLSA
Adjunct Clinical Professor,
Michigan College of
Optometry;
Director, Contact Lenses,
South Bend Clinic,
South Bend, IN

Of the many choices of design corrections for the presbyopic patient interested in contact lenses both soft and gas permeable (GP) lenses provide an excellent option for visual and wearing success. Who are the best patients for multifocal or bifocal lenses? What design concepts are indicated for the early versus mature presbyope? What measurements are needed to increase the chance of success? How can you communicate most effectively to achieve fitting success with your presbyopic patient? This course will cover these items and more, providing the attendee with up-to-date knowledge of how and when to use contact lenses for the presbyopic patient.

演題 7: オーバーナイトオルソケラトロジー長期継続が眼軸長変化に及ぼす影響。日本人学童における5年間経過観察結果



平岡孝浩
筑波大学 臨床医学系眼科
講師

【目的】近年、オルソケラトロジー (OK) 治療により小児の近視進行を抑制できる可能性が報告されている。今回我々は5年間治療を継続した小児の眼軸長変化を検討し、眼鏡対照群との比較を行ったので報告する 【対象と方法】OK群22例 (年齢 10.0 ± 1.4 歳、平均±標準偏差)と眼鏡装用群21例 (年齢 10.0 ± 1.6 歳)を対象とした。2群間にはベースラインでの性別、年齢、屈折、視力、眼軸長に差は認められなかった。眼軸長の測定はIOLマスター (カールツァイス)を使用し、5年間での眼軸長の変化量を比較検討した。【結果】5年間における眼軸長変化量は、OK群 1.00 ± 0.48 mm、眼鏡群 1.41 ± 0.69 mmであり、有意差が認められた ($P=0.0028$) 【結論】OKにより小児近視眼の眼軸長の伸長が抑制されることが、5年間の長期経過においても確認された

演題 8: 円錐角膜に対するHCL処方 ～球面レンズを用いたフラットメソッド～



東原尚代
ひがしはら内科眼科クリニック、
京都府立医科大学眼科非常勤
医師

円錐角膜は角膜が菲薄化して不正乱視が進行する疾患です。眼鏡やソフトコンタクトレンズでは矯正不可能な屈折異常が生じるため、ハードコンタクトレンズ (HCL) の装用が必要となります。本講演では、円錐角膜に対するHCL処方時のポイントを要約すると共に、京都府立医大方式のHCL処方 (フラットメソッド法) のエッセンスを紹介いたします。

演題 9: MSD™ mini-scleral lens to irregular corneas



松原 正男
東京女子医科大学
東医療センター 眼科部長 教授

Large diameter lenses are not well known in Japan yet. The developments in contact lens technology have specialty lenses reincarnated as scleral lenses, while corneal RGP lens fit still prevails for irregular corneas such as keratoconus. MSD™ is one of scleral lens design whose diameter is 15.8 mm and classified as a mini-scleral lens. MSD™ has the advantage of excellent irregular corneal fittings over corneal lenses and of easier handling over full scleral lenses. Practitioners in Japan have not paid much attention to large diameter lenses or mini-scleral lenses whereas they are becoming popular in the USA to fit irregular corneas. To our knowledge we have first introduced mini-scleral lenses to Japan. I am going to present the detail of our experience of the prescription of MSD™.

演題 10: 角膜バリア機能に対するコンタクトレンズとケア用品の影響



今安正樹
(株)メニコン 総合研究所

角膜上皮細胞の表面には膜型ムチンが、また角膜上皮細胞間にはタイトジャンクションやギャップジャンクションが存在し、眼表面バリアとして重要な役割を果たしている。これらのバリア機能が破壊された場合には角膜に対する緑膿菌など病原微生物の接着と侵入が懸念される。今回、ウサギおよびラットにコンタクトレンズを装用し、角膜バリア機能と緑膿菌の接着性に対する影響を評価した。さらにコンタクトレンズ用多目的用剤 (MPS) の影響について、ヒト角膜上皮培養細胞を用いて評価した。角膜バリア機能の破壊と微生物感染リスクの関係について考察したので合わせて言及したい。

第1回 アジア・メディカル・コンタクトレンズ・セミナー

The 1st Asia Medical Contact Lens Seminar

日 時: 2011年11月13日(日)
10:00AM – 5:05PM

会 場: 京都テルサ(京都府民総合交流プラザ内)
西館3階 第1会議室

(JR京都駅八条口西口より南へ徒歩約15分)

(地下鉄九条駅④番出口より西へ徒歩約5分)

京都市南区東九条下殿田町70番地

Tel: 075-692-3400 Fax: 075-692-3402

参加費: 3,000円(軽食を含む。)



申込書 下記の必要事項をご記入の上、FAXまたはe-mailにてお申し込みください。
FAXの場合は、下欄にご記入の上、切り取らずにそのまま送信してください。

FAX番号: 052-935-1121 e-mail: h-hiratani@menicon-net.co.jp

お問い合わせ先: 事務局代行(株)メニコン 学術戦略部 平谷治之

電話番号: 052-937-5021

参加費 3,000円(参加費は、当日現金にて徴収させていただきます。)

定員は160名で、定員になり次第締め切りさせていただきます。

ふりがな		
氏名		
資格	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 研究員 <input type="checkbox"/> その他()	
所属	所属施設:	
	専門科	役職
ご連絡先 どちらかにチェック してください	住所 〒	
<input type="checkbox"/> 勤務先	TEL ()	FAX ()
<input type="checkbox"/> 自宅	e-mail:	@

個人情報につきましては、アジア・メディカル・コンタクトレンズ・セミナー事務局にて管理し、第三者へ譲渡することは一切ございません。

